次世代の親に、心労軽減のための知恵を授けよう （9/7）

先輩親たちの大きな役割

２日に渡る重症児関係の主に親たちの東北ブロック大会に顔を出した。
この大会は、約40年前に発足した東北の旧国療の各施設の親の会の連合会が前身であり、その発足に係わった。

全国組織は当時からあったが、ちょっとした行き違いから、この連合会と全国組織の連携がうまくいかない時期がしばらく続いた。
このことを憂いた全国組織の会長から電話があり、在宅児の親を含めた県支部が発足するように側面からの支援を依頼され、各施設の親が全国組織への理解を進めるように、各施設の仕事仲間に協力を呼びかけたことがあった。
時間はかかったが、ようやく連合会は全国組織の東北ブロックとして発展的解消をし、その大会が今年で12回目を迎えた。
この経緯を知るだけに、今年は会場・宿としてホテルを貸し切る程の多数が参加する会まで発展したことを目にして、感慨深いものがあった。

さて、自分も歳を重ねリタイヤした身であるように、参加者の親御さんたちもそれなりに歳を重ねていたが、表情は輝きお元気そうだった。
高齢にも拘わらず、今もって我が子たちの幸せを願い、こうして参集して話し合うエネルギーは、やはり子どもたちからもらっているのでないだろうかと思い、何人かの親御さんとこのことを話した。
「そうですね～。こんなにたくさんの方々と出会える元気は、我が子のお陰ですものね。」と応えてくれた。
「命とは人のために使う時間のこと」だからと、97歳のご高齢でも今も日々の診療に携わっている日野原重明先生の言葉が、ご高齢になられた親御さんたちの背にも見えた気がした。

自分はこの大会である分科会のアドバイサー役を依頼され、その席上で制度的な環境整備もさることながら、長年の辛苦の子育ての中で得た知恵を、ぜひ次世代の若い親御さんたちへ授ける方策にも取り組んで欲しい旨を話した。

時代が変わろうが、一人、一人の親にすれば障害のある我が子の養育への心労・心情は変わりないはず。
それだけに、若い親たちのその心労を少しでも軽減してあげるべく知恵を授けるのは、先輩親たちの大きな役割と思う。
我が子のことはもちろんのことだが、次世代の親子のための活動でもあることを常に意識し続けて欲しいと願う。

それにしても、語らずして人々に元気を与える重症児の存在感、影響力は凄い！とつくづく思う。

- 「雑学BN」
- 「雑学・フォトアルバム」

MAIL HOME